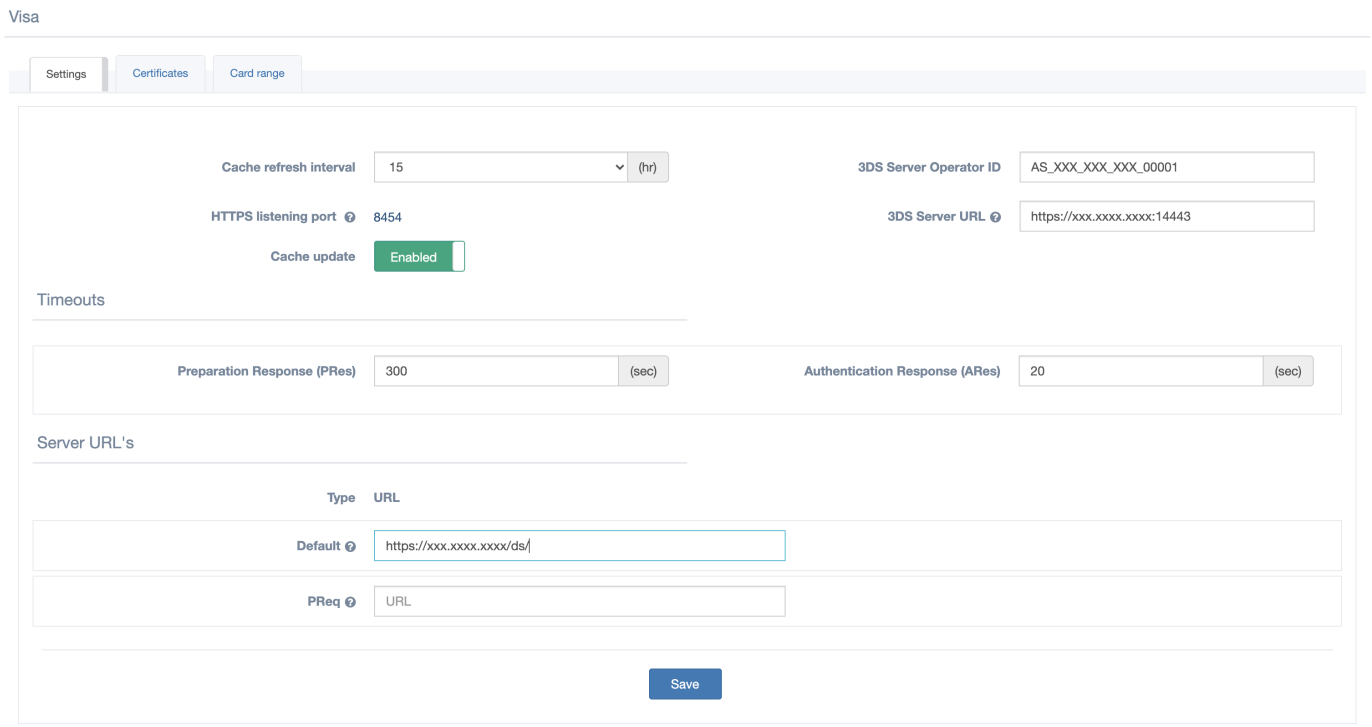
DS設定の管理

ActiveServerでサポートされるすべての国際ブランドは**Settings**タブの**Directory Servers**ページで管理できます。

- **Production：**国際ブランド（Visa、Mastercard、JCB、American Express、Discover、UnionPay、eftpos）本番環境プロダクションディレクトリサーバー
- **TestLab：**GPaymentsの**ディレクトリサーバー**と**アクセスコントロールサーバー**で構成される**TestLabs**。**ActiveServer**インスタンスで機能テストを実行するためのさまざまなカード会員シナリオが構成されています。これらの構成の大部分は、TestLabsをサポートするためのプリセット構成であるため、変更はできません。詳細については、TestLabsガイドを参照してください。

ユーザーアクセス

ユーザーがDS設定を管理するには、**System admin**ロールが必要です。



国際ブランド設定を編集するには：

詳細を表示するには、ページ上部の適切な**国際ブランド**を選択します。

Copyright ©2026 GPayments Pty Ltd. All rights reserved.

設定

Settingsセクションでは以下の設定を編集できます：

- **Cache refresh interval** - 使用可能なすべての国際ブランドのPResキャッシュが更新される間隔。 PReq/PResメッセージは、**ActiveServer**によって利用され、利用可能なACS、DS、および3DSメソッド呼び出しに使用されるURLでサポートされるプロトコルバージョン番号に関する情報をキャッシュします。データは、DSによって設定されたカード範囲ごとに整理されます。 ACSとDSがサポートするプロトコルバージョン番号で提供される情報は、アプリベース、ブラウザーベース、および3RIのフローで利用できます。この交換は少なくとも24時間に1回、最大でも1時間に1回行われることが3DS2仕様の要件です。(単位： 時間)
- **Cache update** - これは、Directory Serverと一定の間隔で実行されるPReq/PResプロセスを有効または無効にするスイッチです。PReq/PResプロセス中に、**ActiveServer**はPResで指定されたカードレンジをキャッシュします。 また、カードレンジタブより、**ActiveServer**が自身のキャッシュに現在保持している各Directory Serverプロバイダーのカードレンジを確認できます。
- **3DS Server URL** - チャレンジの完了後にDSがRReqメッセージを送信する3DSサーバーのURL。
  - **3DS Server URL**に値が設定されていない場合、デフォルトのURLが入力されます。デフォルトのURLは、外部URL（またはAPI URL(存在する場合))からのドメイン名、`application-prod.properties`ファイルにて構成したDSのポート番号から設定されます。
  - Production Directory Serversの場合、**3DSサーバーのURL**は環境/ロードバランサーの設定に完全にカスタマイズ可能であり、サーバーのURLとは異なる場合があります外部URL。
  - TestLabs Directory Serverの場合、**3DSサーバーURL**はサーバーと同じドメインを持つ必要があります外部URL（またはAPI URLの値が設定されている場合。）
- **3DS Server Operator ID** - DSが割り当てた3DSサーバー識別子。各DSは各3DSサーバーに個別に一意のIDを提供できます。これは通常、国際ブランド・コンプライアンス・プロセス中、あるいは終了時に提供されます。このフィールドがAReqおよびPReqメッセージに存在する要件はDS固有です。
- **HTTPS callback port** - ASが認証中にHTTPS通信をリスンするポート。
- **External URL** - DSが認証中にコールバックするURL。

Copyright ©2026 GPayments Pty Ltd. All rights reserved.

> **注釈**
>
> 外部URLの更新時に**3DSサーバーURL**が既に設定されている場合があります。

> **重要**
>
> 上記のURLの場合、システム機能が正しく実行されることを確認するためにURL妥当性確認が実行されます。妥当性確認では、URLに**パス**または**クエリ文字列**が含まれていないことを確認します。
>
> 例： `https://domainname<:port>` は妥当性確認に成功しますが、 `https://domainname<:port>/path?queryString` は失敗します。

タイムアウト

Timeoutsセクションでは以下の設定を編集できます：

- **Preparation Response (PRes)** - PResメッセージのタイムアウト時間
- **Authentication Response (ARes)** - AResメッセージのタイムアウト時間

サーバーURLリスト

Server URLsセクションでは、国際ブランドDSのアドレスのDS URLを入力できます。

Default URLはAReqとPReqのメッセージをDSのプロバイザーに送信する際に使用されます。

DSのプロバイダーによってはAReqとPReqのエンドポイントが違う場合があるので、**PReq URL**はオプションで入力できます。この項目に値を設定した場合は**Default URL**の値を上書きし、設定していない場合は**Default URL**がPReqにしようされます。

> **注釈**
>
> 国際ブランドのメッセージの送信を無効にする場合は、**デフォルトURL**と**PReq URL**のURLを削除します。これにより、その国際ブランドへの認証要求の送信が無効になり、PReq / PRes処理は無効になります。

Copyright ©2026 GPayments Pty Ltd. All rights reserved.